

施策名	6 地域福祉			総合計画審議会からの施策目標の実現に向けた講評等	
R9年度末にめざす状態（施策目標）【P】	困難に寄り添う支援ができる、誰にでも居場所と活躍の場がある地域づくりが進んでいる	進捗度	C		

【進捗度】 A：4年後にめざす状態をすでに実現している、B：4年後にめざす状態の実現に向けて大変順調に進んでいる、C：4年後にめざす状態の実現に向けて概ね順調に進んでいる、D：4年後にめざす状態の実現には努力が必要である、E：4年後にめざす状態の実現には相当努力が必要である

(1) 寄り添った支援体制の構築・拡充				
施策目標の実現に向けて得られた成果【C】		施策目標の実現に効果のあった取組【D】	取組による効果の内容とその根拠【D】	
・重層的支援体制整備事業の本事業実施に伴い、参加支援事業や支援会議の開催により、主担当課以外との連携構築を行い、包括的な支援体制整備作りを更に進めることができた。 ・制度の「はざま」となっている方やひきこもり状態にある方、その家族に対して、民間の団体や支援者の協力で、社会参加の機会を拡大することができた。		N0.1	重層的支援体制整備事業（かさねるいこま）	社会福祉協議会に参加支援事業を委託することで支援の拡充を図った。
		N0.2	ひきこもり支援事業	相談支援と居場所の運営及び参加支援との連携により、ひきこもり状態にある方への支援を充実させた。
施策目標の実現に向けて解決すべき課題【C】		施策目標の実現に向けた今後の取組の方向性【A】		
・15歳や18歳など、支援機関の切り替わるタイミングで支援者や社会との繋がりが途絶える可能性が高まる年齢や、ニーズにあった公的支援制度が見つからない状態にある方など、制度の「はざま」となり支援が受けられない方を、支援者同士のつながりやインフォーマルな支援でつなぐ仕組みの構築が十分ではない。 ・ひきこもり期間の長期化を防ぐための支援機関同士の連携が不十分である。		・重層的支援体制整備事業の開始から3年が経過し、徐々に構築されつつある、支援者同士の連携を今後も継続していく。 ・ひきこもり支援事業においては、相談支援との連携強化を図り、居場所の周知や、社会資源との連結を強化し、既存事業を継続する中で支援者間のネットワークを定着させる。		

(2)地域における支え合い・社会参加の促進				
施策目標の実現に向けて得られた成果【C】		施策目標の実現に効果のあった取組【D】	取組による効果の内容とその根拠【D】	
・高齢者の生きがいづくりや社会参加を促進することにより、地域で支え合う意識を醸成し、高齢者の安心・安全が確保できる仕組みを構築することができた。また、老人クラブやシルバー人材センターへの補助金の支給によって、間接的に活動の場の提供につながった。		No.5	生きがいづくりと社会参加の促進	交通費助成等を実施することにより、外出の機会を創出し、生きがいづくり、社会参加を促進した。
		No.7	民生委員協力員制度	2名委嘱し、民生・児童委員の活動に協力いただき、地域の見守り体制が強化された。
施策目標の実現に向けて解決すべき課題【C】		施策目標の実現に向けた今後の取組の方向性【A】		
・ひとり暮らし高齢者の増加や地域課題の複雑化・複合化などに伴い、民生委員の役割、重要度が増大することで、負担増加やなり手不足の課題が生じている。 ・生きいきクーポン券交付等事業については、増大する事務費を軽減する必要がある。		・民生委員活動の補佐・協力をする民生委員協力員制度の活用を促進し、負担軽減や担い手不足の解消を図る。 ・生きいきクーポン券交付等事業の代替施策案とする「健康増進・介護予防」、「認知症施策・身寄りのない方の支援」、「地域公共交通維持」について、関係課と連携のうえ、具体的な事業内容を検討し、令和10年度の改正時に代替事業を実施できるよう準備を進める。		

(3)安心して暮らせる環境づくり		
施策目標の実現に向けて得られた成果【C】	施策目標の実現に効果のあった取組【D】	取組による効果の内容とその根拠【D】
・ 困窮世帯への経済的負担に寄与するとともに、生活困窮子育て世帯とつながることで、一早くニーズをキャッチし、迅速に支援することができる。	No. 8 生活困窮子育て世帯への食料品等の配付	希望世帯に対し、企業・市民から寄付等で寄せられた食料品や文房具などの物品を定期的に届けた。 （参加世帯数 約620世帯中364世帯）
施策目標の実現に向けて解決すべき課題【C】	施策目標の実現に向けた今後の取組の方向性【A】	
・ 現状の物品提供元のみでは、安定的な寄付食料品等の確保が困難である。 ・ 現状の広報では利用者への周知が十分でなく、サービス活用の拡大に課題がある。	・ 物品提供元の企業等の拡大に向けて取り組む。 ・ 引き続き生駒市社会福祉協議会と連携を図り、生活困窮世帯に対して必要な食料品等を届け、世帯の見守り活動を併せて行うとともに、周知方法を工夫し必要とする世帯に支援が届くよう努める。	

《参考》施策の進捗状況を測る代表的な指標【C】																																						
I 重層的支援会議の開催回数 (回/年)	II 困ったときに助けてくれる人が地域の中に いると思う人の割合(%)	III あいサポーター養成人数 (人)																																				
<table><tr><th>年度</th><th>開催回数(回/年)</th></tr><tr><td>策定時</td><td>8</td></tr><tr><td>R6</td><td>12</td></tr><tr><td>R7</td><td>12</td></tr><tr><td>R8</td><td>11</td></tr><tr><td>R9</td><td>12</td></tr></table>	年度	開催回数(回/年)	策定時	8	R6	12	R7	12	R8	11	R9	12	<table><tr><th>年度</th><th>割合(%)</th></tr><tr><td>策定時</td><td>42.5</td></tr><tr><td>R6</td><td>35.5</td></tr><tr><td>R7</td><td>32.6</td></tr><tr><td>R8</td><td>44.5</td></tr><tr><td>R9</td><td>46.5</td></tr></table>	年度	割合(%)	策定時	42.5	R6	35.5	R7	32.6	R8	44.5	R9	46.5	<table><tr><th>年度</th><th>人数(人)</th></tr><tr><td>策定時</td><td>1646</td></tr><tr><td>R6</td><td>1860</td></tr><tr><td>R7</td><td>1929</td></tr><tr><td>R8</td><td>1850</td></tr><tr><td>R9</td><td>1900</td></tr></table>	年度	人数(人)	策定時	1646	R6	1860	R7	1929	R8	1850	R9	1900
年度	開催回数(回/年)																																					
策定時	8																																					
R6	12																																					
R7	12																																					
R8	11																																					
R9	12																																					
年度	割合(%)																																					
策定時	42.5																																					
R6	35.5																																					
R7	32.6																																					
R8	44.5																																					
R9	46.5																																					
年度	人数(人)																																					
策定時	1646																																					
R6	1860																																					
R7	1929																																					
R8	1850																																					
R9	1900																																					

《参考》めざす状態に対する市民実感度 「そう思う」+「どちらかというと思う」と回答した人の割合	
【R7.12月】 20.8%	【R6.8月】 23.6%